

矢部太郎さん出演の  
ONEOR8 公演  
「ペノザネオッタ」  
6/18(土)～6/26(日)  
赤坂 RED/THEATER  
tel: 080-6577-1399  
ONEOR8

## お笑い芸人、俳優、気象予報士 やってます。

カラテカ 矢部 太郎さん

「僕は他人のことはよくしゃべるのですが、自分のことになると苦手で…」と申し訳なさそうに話す矢部太郎さん(33歳)。全く自己PRすることがなく、あくまで謙虚。いわゆる芸人臭のない、透明感漂う人だ。

東村山市で生まれ育ち、回田小、東村山第四中を経て都立保谷高校へ。ここで同級生だった相方の入江慎也さん(小平市出身)に誘われて、東京学芸大学在学中にお笑い芸人の道へ。

「当時は渋谷にあった吉本劇場の前で募集チラシを見て、二人で受けてみたところ受かったんです。応募が2組だけだったから、その頃はお笑いブームじゃなかったの、ラッキーでした。翌年は応募が100組もあったそうですから」

お笑いコンビ「カラテカ」を結成したものの、最初は月1回の舞台出演で、ギャラはたったの250円! レンタルビデオ店や東村山四中近くの釣堀でアルバイトをする生活が4〜5年続いた。ちょこちょこテレビにも出演できるようになり、「矢部太郎」の名を一気に有名にしたのが、初の全国区番組「レギュラー」となった「進め! 電波少年」(日本テレビ)。「○○人を笑わしに行こう」という企画で、さまざまな国の言葉を学習し、その国の人々を笑わせるというもの。この番組内で矢部さ

んは11ヶ月でスワヒリ語、モンゴル語、韓国語、コイサンマン語をマスターするという離れ業をやったのけ、その高い語学力はお茶の間を驚愕させたものだ。初めての海外は、この時ロケで行ったケニアのマサイ族の村。

「外国での初体験が、トカゲをつかまえて食べることですからブツビビました。でもコイサンマン語で、イタイー」と言っただけで、村人が朝までお祈りしてくれたんですよ」

この番組での体験をもとに、「語学の脳みそー11ヶ月で4ヶ国語をマスターした僕の語学のツボ」(ワニブックス・2002年)を出版。読んでみると語学習得のためのノウハウがノートのとり方まで詳しく記してあり、実践的でとても楽しい本だ。

2007年には平均合格率6・2%といわれる気象予報士の国家資格を取り、また世間を驚かせた。「集中することが好きなんです。勉強も絵を描くのもぶっ通しでやってしまいます」。

父は絵本作家のやべみつのりさん。出来上った絵本を父は真っ先に太郎さんに見せ、感想を聞いたものだった。部屋の中にはいつも絵本がたくさんあった。父と一緒にしやサリガニをとった思い出。「同じ東京出身といっても、霜柱を踏んだ経験がない人もいて、他の人と思いが共有できないんです

よ。東村山に帰るとホッとしますね」

最近では俳優としての活躍もめざましい。2008年の「幕末純情伝」で土方歳三役を演じ、演出の故つかこうへいさんから「芝居の楽しさ」を学び、新しい自分を発見した。本年3月には沖縄国際映画祭で上映された、板尾創路監督による「月光ノ仮面」(今秋公開予定)に出演。「どこにもいなさそうな役者」という理由で板尾監督が矢部さんを起用したのだとか。そんな不思議な個性が矢部さんの魅力なのかもしれない。

昨年はテレビ番組内での結婚が話題を呼んだが、好きな女性のタイプを訊ねると、少し間をおいて「友だちがいない女性がいい」という答え。「え〜?」「群れないひとがいいです」何だか分かったような気がした。先輩芸人たちに可愛がられ、仲間とも楽しく付き合う時間と、決して他人に侵されない自分の時間とのバランスがとれている人だと思ふ。

学生時代に教育実習を体験したとき、小柄で瘦身の体格のためか「見た目が先生やるにはマイナスだと思っただ。お笑いではそのマイナスがプラスに転化できるとポジティブに考え、向いていると…」あくまで基本はお笑い芸人。次はどんなことに挑戦してくれるのか、期待してきます!